

2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 1 月 26 日作成)

小委員会名	安全街区構築指針検討小委員会	主 査 名：原 英嗣 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：吉田 聡
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>災害大国である我国の都市は、国際競争力を持つためにも安全性を確保し、かつ生活や事業が継続できる環境整備が必要不可欠である。本小委員会では、都市再生安全確保計画の状況や課題を整理したうえで、「安全街区」のあり方、構築のための指針について検討を行う。</p> <p>初年度：都市再生安全確保計画を策定している地区に対して、実施内容、実施状況を調査し、課題を抽出し整理する。また、近年多発している台風、豪雨による風水害に関する調査を実施する。</p> <p>2 年度：引き続き都市再生安全確保計画を軸とした安全街区に関わる情報収集及び情報交換を行い、「安全街区」に要求される与条件や構築する上での課題について整理する。</p> <p>3 年度：前年度までに得た知見をもとに、課題等をまとめ、「安全街区」のあり方、構築のための指針について検討を行う。</p> <p>4 年度：「安全街区」のあり方、構築のための指針を作成し、公開勉強会等を通じて情報発信する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：原 英嗣 (国土館大学) 幹事：中島 裕輔(工学院大学) 委員：村上 正浩(工学院大学)、吉田 聡 (横浜国立大学)、稲垣 景子 (横浜国立大学)、増田 幸宏 (芝浦工業大学)、村上 公哉 (芝浦工業大学)、小柳 秀光 (北海学園大学)、堀 英祐 (近畿大学)、田中 英紀 (名古屋大学)、島 潔 (大林組)、山川 智 (東海大学)、國友 理 (東京ガス)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	95,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 委員より「危機事象と向き合う建築」、「地域機能維持継続のためのエネルギーシステムのレジリエンス性能評価」、「地下街における避難場所を想定した睡眠実験」について情報提供があり、「安全街区」に要求される与条件や構築する上での課題について議論した。 2. 近年多発している台風、豪雨による風水害について、具体的な河川管理の手法について情報収集した。 3. 次年度は、現在までの情報を整理するとともに、引き続き関連情報の収集等を実施する予定である。
委員会活動の問題点 ・ 課題	無

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A B C D
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>災害大国である我国の都市は、国際競争力を持つためにも安全性を確保し、かつ生活や事業が継続できる環境整備が必要不可欠である。本小委員会では、都市再生安全確保計画の状況や課題を整理したうえで、「安全街区」のあり方、構築のための指針について検討を行うことを目的に設置された。</p> <p>現在までの活動は以下の通りである。</p> <p>2021 年度は、都市再生安全確保計画に関して、政策の概要と当初からの問題点、また計画を策定している地区に対して実施内容、実施状況調査結果について議論し、課題を抽出した。</p> <p>2022 年度は、委員より「危機事象と向き合う建築」、「地域機能維持継続のためのエネルギーシステムのレジリエンス性能評価」、「地下街における避難場所を想定した睡眠実験」について情報提供があり、「安全街区」に要求される与条件や構築する上での課題について議論し、また、近年多発している台風、豪雨による風水害について、具体的な河川管理の手法について情報収集した。</p> <p>次年度は、現在までの情報を整理するとともに、引き続き関連情報の収集等を実施する予定である。</p> <p>中間評価として、安全街区に関する情報収集は比較的進んでいる一方で、開催数が少なく、議論と情報の整理があまり出来ていない点を考慮して評価した。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。